

専門科目と連携した情報活用教育

専門科目と連携した情報活用教育のための  
授業設計・運営ガイド(家政系)

公益財団法人 私立大学情報教育協会

情報教育研究委員会

情報リテラシー・情報倫理分科会

分野別情報教育分科会

大妻女子大学 家政学部 阿部栄子



## 大学における情報活用能力育成のガイドライン(3つの目標)

	到達目標	到達点 1	到達点 2		到達点 3
到達目標 A	問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組む、情報通信技術を適切に活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる	問題発見・解決を思考する 枠組みを理解する	枠組みを活用して与えられた問題解決に取り組むことができる		答えが一つに定まらない問題に対して自ら問題発見・解決に取り組むことができる
到達目標 B	情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動することができる	発信者の意図を推測した上で、情報を読み取り、内容を説明できる	社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して安全に情報を扱うことができる		情報社会の光と影を理解し、望ましい情報社会の在り方について考察することができる
到達目標 C	情報通信技術の現状と可能性を考察し、論理的思考に基づき、価値創造に向けて必要となるIoT、モデル化、データサイエンス、AIなどの知識・技能を活用できる	情報通信技術の特性を説明できる	到達点2	到達点3	到達点4
			仮説検証の手段として、モデル化とシミュレーション等を通じて予測することができる	データサイエンスやAIを適切に活用することができる	



# 家政系分野で求められる情報活用能力

## 1. 専門領域での問題発見・解決できる能力

- ・枠組みを活用して与えられた問題解決に取り組むことができる(A2)
- ・答えのない問題に対して自ら問題発見・解決することができる(A3)

## 2. 専門領域の特徴を踏まえて、正確な情報を収集する能力

- ・社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して安全に情報を扱うことができる(B2)

## 3. 収集したデータ・資料を専門領域の分析手法で解析し、それらを問題解決に活用する能力

- ・情報通信技術の特性を説明できる(C1)
- ・仮説検証の手段としてモデル化とシミュレーション等を通じて予測することができる(C2)



## 大学における情報活用能力育成のガイドライン (3つの目標)

	到達目標	到達点 1	到達点 2		到達点 3
到達目標 A	問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組む、情報通信技術を適切に活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる	問題発見・解決を思考する枠組みを理解する	枠組みを活用して与えられた問題解決に取り組むことができる		答えが一つに定まらない問題に対して自ら問題発見・解決に取り組むことができる
到達目標 B	情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動することができる	発信者の意図を推測した上で、情報を読み取り、内容を説明できる	社会の一員としての責任を理解し、他者に配慮して安全に情報を扱うことができる		情報社会の光と影を理解し、望ましい情報社会の在り方について考察することができる
到達目標 C	情報通信技術の現状と可能性を考察し、論理的思考に基づき、価値創造に向けて必要となるIoT、モデル化、データサイエンス、AIなどの知識・技能を活用できる	情報通信技術の特性を説明できる	到達点2	到達点3	到達点4
			仮説検証の手段として、モデル化とシミュレーション等を通じて予測することができる	データサイエンスやAIを適切に活用することができる	社会における情報通信システムの在り方を考察することができる



# SDGs (持続可能な17の開発目標)



## ・専門科目（被服学分野）への導入

・繊維製品に施される多様な加工・縫製・取り扱いの上で  
生じる問題点への対応

【製品と生活者・消費者・業界（川上・川中・川下）との関わり】



1. 最新データをトータルに収集
2. 品質苦情発生事例とその適切な処理
  - 1) 材 料：素材特性など
  - 2) 加工・整理：染色、洗濯など
  - 3) 企画・設計・生産：デザイン、着心地、色彩など
  - 4) 流通・消費：消費者行動、ファッション業界など
  - 5) 苦情申し出者と事業者・行政との関わり（苦情処理の原則に配慮）
3. 持続可能な衣生活の提案(SDGs)



# ・テーマの一例:「繊維製品の品質苦情を解決する」

## ・授業の流れ

- ①ICT活用初年次教育で取得する基礎的知識・スキルの確認
- ②調査結果に基づく実態把握
- ③苦情品の品質確認、苦情原因の究明と製品の判定
- ④苦情試験報告書の作成
- ⑤苦情原因の責任所在と再発防止対策
- ⑥SDGsを考慮した衣生活の提案

## ・授業方法

数名(5~6名)によりチームを編成し、ディスカッション、協働学修  
対象: 被服学科3年生、回数: 3コマ(90分×3)



# 授業設計のポイント①

- a. 情報活用能力の到達目標を明確に提示
- b. 担当者間での授業内容を共有化
- c. 各科目の授業内容をマップなどで可視化
  
- d. 事例の選択
  - 対象： 学生に取っての身近な題材を選定
  - 調査： 1) 実態調査(報告書の作成)  
2) 品質苦情の発生原因と背景
  - 手順： 1) 苦情処理(処理カードの作成)  
2) 使用と性能変化  
3) 苦情実態・要因
- e. 注意点： 正しい情報であること





# 授業設計のポイント②

## a. 授業の構成

- ①グループ内外における活発な討論
- ②グループワークによる多面的な苦情処理の原因究明と再発防止策を考える
- ③苦情処理の防止に向けて、消費者・企業が考えること
- ④持続可能な衣生活に向けて考えられているか(SDGs)
- ⑤まとめ、整理(グループ、全体)

## b. 評価

- ①グループ毎の振り返り、自己の振り返り
- ②アンケートの実施
- ③企業(業界)とのディスカッションができるの良い

